

OEN交流会レポート

学校園と企業・大学等が「学び」を軸に出会い、連携のヒントを持ち帰る場として、OEN交流会を開催しました。学校と連携企業の“双方”から実践を語る発表に加え、参加者同士の意見交換を通じて、ミスマッチを減らし、継続的な取組へつなげる具体的な視点が共有されました。次年度に向けて「まず相談してみよう」と思える、実践的な交流の時間となりました。

1 開催概要

日時 令和7年2月22日(土) 10:00~12:15
 場所 大阪市総合教育センター シナジースクエア
 参加 企業・大学等の方 49人 教職員 44人
 内容 OEN紹介 / 取組事例発表 / 参加者交流

3 ポイント

■学校・企業の“両方の視点”

ねらい、準備の工夫、実施後の受け止めがセットで理解でき、次の一歩が具体化。

■キャリア教育×探究×情報活用など、教科横断の実践

職業講話、動画制作、金融教育など、単元に結び付けるヒントが得られた。

■ミスマッチを減らすポイントを共有

年間計画との関係、単元との接続、ゴール設定、継続性、負担感の調整など、率直な意見交換ができた。

■「単発で終わらせない」工夫

継続的な学び・効果検証の必要性が参加者から挙がり、次年度の改善につながる論点が明確になった。

2 取組事例発表の概要

■西中学校 × (株) ニュージェック

8業種の方を招いた職業講話。多様な仕事の話が将来を考えるきっかけに。

■岸里小学校 × レノボ・ジャパン(+大阪教育大学の学生)

キャリア教育と動画制作。発信の工夫や著作権など発信の学びを実感。

■依羅小学校 × 三菱UFJフィナンシャル・グループ

単元に出前授業を効果的に組み込み、学びが深まり意欲も向上。

■4小×4社(オンライン型の探究学習)

複数校×複数社の連携モデルを紹介。

4 参加者の声

■企業・大学等の方

- ・OENがコーディネートをしてくれたり、助言してくれたりするのが心強い。
- ・学校側のニーズや課題感、ミスマッチの実情を知ることができた。
- ・双方からの発表で意見が分かりやすく、交流しやすい配慮もよかった。

■教職員

- ・企業の方が教育に熱意をもって関わっていることを知ることができた。
- ・企業の専門知識で、子どもの学びが学校外へ広がる意義を感じた。
- ・OENの仕組や支援が示され、今後の活用の見通しが持てた。



学校からの発表の様子



企業からの発表の様子



参加者交流の様子